

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒101-8228
 住 所 東京都千代田区神田猿樂町2-8-8
 氏 名 大林道路株式会社
 代表取締役社長 福 本 勝 司

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	大林道路株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区小島町8番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	アスファルト混合物の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,338	kl
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度～平成30年度（報告年度 30年度分）
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況 (排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 4,214 t-CO ₂ (調) 4,194	(実) 5,074 t-CO ₂ (調) 5,053	(実) 5,180 t-CO ₂ (調) 5,159	(実) 4,662 t-CO ₂ (調) 4,642	(実) 4,172 t-CO ₂
削減率		(実) -20.4 % (調) -20.5	(実) -22.9 % (調) -23.0	(実) -10.6 % (調) -10.7	(実) 1.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値					
削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	平成28年度の当社の川崎市内に所在する川崎アスファルト混合所における合材生産量は平成27年度(基準年度)に対して約40%増となり、それに伴い生産効率は改善(都市ガス使用量・基準年度9.75m ³ /t→平成28年度8.86m ³ /t)したものの、排出量は基準年度に対して20.4%増となった。
第2年度	平成29年度の当社の川崎市内に所在する川崎アスファルト混合所における合材生産量は平成27年度(基準年度)に対して約38%増となり、それに伴い生産効率は改善(都市ガス使用量・基準年度9.75m ³ /t→平成29年度9.34m ³ /t)したものの、排出量は基準年度に対して22.9%増となった。
第3年度	平成30年度の当社の川崎市内に所在する川崎アスファルト混合所における合材生産量は平成27年度(基準年度)に対して約30%増となり、それに伴い生産効率は改善(都市ガス使用量・基準年度9.75m ³ /t→平成30年度8.99m ³ /t)したものの、排出量は基準年度に対して10.6%増となり、目標を達成できなかった。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○従業員の教育 ○重機のアイドリングストップの実践 ○毎月第二週目土日閉所の実施 ○生産設備の運用管理
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○従業員の教育 工場内の定例会議で全従業員に温暖化対策の教育を実施した。 ○生産設備の運用管理 アスファルト合材の連続出荷により燃費改善を図り、製造単位当たりの都市ガス使用量を削減した。
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○従業員の教育 工場内の定例会議で全従業員に温暖化対策の教育を実施した。 ○生産設備の運用管理 アスファルト合材の連続出荷により燃費改善を図り、製造単位当たりの都市ガス使用量を削減した。 ○毎月第二週目土日閉所を実施した。
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○従業員の教育 工場内の定例会議で全従業員に温暖化対策の教育を実施した。 ○生産設備の運用管理 アスファルト合材の連続出荷により燃費改善を図り、製造単位当たりの都市ガス使用量を削減した。 ○毎月第二週目土日閉所を実施した。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. 低燃費車の導入 2. エコドライブの実践
第1年度	1. リースアップ連絡車をハイブリッド自動車に更新した。 2. 工場全エコドライブの実践（ムダなアイドリングを止める。カーナビの活用により、渋滞を避けるなど。）
第2年度	2. 工場全エコドライブの実践（ムダなアイドリングを止める。カーナビの活用により、渋滞を避けるなど。）
第3年度	1. リースアップ連絡車をハイブリッド自動車に更新した。 2. 工場全エコドライブの実践（ムダなアイドリングを止める。カーナビの活用により、渋滞を避けるなど。）

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	4,597	t-CO ₂
(調)	4,568	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎アスファルト混合所	川崎市川崎区小島町8番2号	1741	舗装材料製造業	4,597 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--